
丘の上の空

幻夢

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

丘の上の空

【Nコード】

N1133R

【作者名】

幻夢

【あらすじ】

いつもと少し違ったある朝の出来事

カーテンの隙間から差し込む光に目が覚める。
頭が痛い。枕に顔を押しつけ、3度唱える。「起きる、起きる、起きる」
布団から飛び出し、洗面所へ向かった。

僕は朝部屋のカーテンを開けることはない。薄暗い部屋。
コーヒーを飲む。インスタントコーヒー。最近朝食はとってない。
時計を見る。頭が痛い。3度顔を両手で叩く。気合は・・・入らない。
まだ寝ぼけた顔。ドアのノブに手をかけながら、玄関で3秒たたずむ。
重いドアを開ける。

眩しい。

いつもと同じ。起きた時間も。コーヒーのまずさも。家を出る時間も。管理人の無駄に元気な挨拶も。
何も変わらない。しかし、いつもと一つだけ違った。ドアを開けた瞬間、いつもならひどくなる頭痛が今日はなぜかスーッと消えていった。外から差し込む日の光に自然と吸い込まれるように。

この坂道を上ると、ごちゃごちゃした街が一望できる。決して綺麗な景色ではない。
蟻のように駅へ向かう人達。大通りの渋滞。毎朝ここで僕はため息をつく。

しかし、今日は違った。うんざりする目の前の景色が一切目に入ら

ず僕はなぜか空を見上げていた。

「いい天気だ。」

なんとなく、空を見上げていた。気持ちいい。

青い空。僕の体は広く高い空に向かって舞い上がった。

どンドン昇っていく。

雲が少し邪魔でも、太陽の光が眩しくても、もっともっと高くやがて、宇宙に飛び出した。

地球を見下ろした。

「綺麗だ。」

うんざりする景色も。どうしようもない嫌な頭痛も。そこにはない。胸のあたりがスーッとする。今、僕は地球を見下ろしている。

気がつくと、いつもの丘の上にいた。

人ごみで溢れる駅前。クラクションが鳴り響く大通り。

そんな景色を背景に、僕の足元には綺麗な花がさりげなく咲いていた。

僕は微笑んだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1133r/>

丘の上の空

2011年2月22日15時46分発行